

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103250
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス馬木
所在地	松山市馬木町2174番町
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 10月 31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設には充実したリハビリ機器があり、利用者の皆様には、個別に応じて起立運動・滑車・電気治療等のリハビリメニューがあり。出来る限り毎日継続して行って頂いている。リハビリを行うことにより、筋力・上下肢維持・向上に努めている。またリハビリ毎日継続して行うことで生活に張りが出て意欲の向上につなげている。また地域・施設の行事の参加することで、地域の方々との交流を図っている。季節感を味わっていただけるように、毎月、外出、外食を計画し取り組んでいる。また誕生日会では、職員が出し物をしたり、ボランティアの慰問を依頼するなどして利用者さんに楽しい時間を過ごして頂ける様支援している。今後は、より一層、地域の方々との交流、関係が築ける様に、施設が地域に出来る役割を見つけて発信していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に手入れの行き届いた広大な畑がある事業所は、閑静な住宅地に立地しており、「その人らしく、地域の中で共に暮らす」という理念を掲げて、地域に溶け込み、地域の支えの中で暮らしている。職員は秋祭りで地区の神輿を担ぎ、市民大清掃や地区運動会、防災訓練に住民として参加している。運営推進会議には地区の多様な関係者が集まり充実した協議がなされ、サービスの向上に反映させている。毎月訪れる物産品やたこ焼きの行商は利用者の楽しみでもあり、近所の住民も買物に訪れて交流の機会になっている。また、母体法人が医療機関で、日常的な健康管理と緊急時24時間医療体制が整備され、利用者や家族のみでなく職員にとっても安心感がある。中高年齢層の職員は毎月勉強会を開催しながら研鑽に努め、結束したチームワークで難局を乗り越えた経験を持っており、今後さらに地域貢献や利用者個人の希望を実現する個別ケアの充実を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス馬木

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)

氏名 菅谷 誠

評価完了日 平成 28 年 10 月 5 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域の中で共に、地域の方々と暮らしていける事、その人らしい生活を送れることを理念にあげ、職員全員が理念を共有し、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 職員は、「その人らしく、地域の中で共に暮らす」という理念を継承し、地域行事に積極的に参加する等、地域とのつきあいを大切にしている。また、利用者がその人らしく暮らしていけるよう、一人ひとりをよく理解して個別ケアに努めている。理念は玄関やユニットに掲示して周知し、毎年振り返りを行って職員間で共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事(夏祭り、秋祭り、運動会、掃除、防災訓練等)に参加し、また施設の行事にも地域の方々に声をかけ参加して頂き、地域と施設(利用者)のつながり、関わりを大切にしている。散歩時の挨拶、会話の中でも、地域との交流は日常的に出来ている。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入しており、回覧板を通して地域行事の情報を得て積極的に参加している。地区の祭りでは職員が神輿を担いだり、綿菓子やポップコーンを販売して喜ばれている。利用者も地区運動会の宝さがしに参加して地域の人と交流して楽しんでいる。また、ボランティアや保育園児が訪れ、交流の機会がある。事業所の敷地には広大な畑があり、近所の人々が畑指導をしたり、散歩中立ち寄ってベンチで休憩することもあり開放的である。物産品の行商が訪れた際は近所の人も来訪して顔馴染みになっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的を開催している運営推進会議や講習会の中で、認知症の人の理解や支援方法を伝達、報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価)</p> <p>2ヶ月毎の運営推進会議に、町内会長や公民館長、民生委員、介護保険課、地域の駐在委さん、他のグループホームの方、また家族の方にも参加して頂いており、利用者やサービスの実際、評価への取り込みとその結果についても報告を行い、地域の方、他のGHの方の意見を取り入れ、サービス向上に生かしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議は、利用者や家族、老人クラブや町内会長、公民館長、駐在所警察官等多様な方々の参加を得て2か月に1回開催している。会議では、利用者の状況や活動報告のほか、担当職員が研修報告を行い、参加者全員が意見を述べられるよう工夫して運営している。管理者は参加者と親密な関係ができ、事業所の理解が進んでいると感じており、事業所として地域に貢献できることはないか考えている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>介護保険課の方、地域包括の方に運営推進会議等に参加して頂き、新しい情報を提供して頂きながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市担当課職員や地域包括支援センター職員は、運営推進会議に参加して事業所の状況を把握し、情報の提供や助言を行っている。生活福祉課職員とも連携しながら利用者の支援にあたっている。また、地域包括支援センターで開催する研修会に参加して他事業所と情報交換を行うなどの交流がある。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束についてのマニュアルを作成し職員全員が十分に理解をした上で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。危険を伴う方については事前にご家族へ十分な説明を行い、了解を頂いた上で、期間を決めて実践している。玄関の施錠は、防犯対策として夜間のみ施錠している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>マニュアルを作成し、年1回法人内研修のテーマとして取り上げて職員全員が学ぶ機会を持っている。日中玄関は常時開放されており、利用者は自由に入出りすることができる。管理者は、言葉による拘束について職員にその都度伝え、注意を促すように努めている。医療処置を必要とする利用者もあり、危険な行為が予測される場合は家族に説明して理解を得、短期間拘束を行うことがある。人形を抱いてもらう等の工夫をして、拘束をしないに対応する場合もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について職員は皆周知しており、勉強会などで再確認する機会を待ち、身体的、精神的虐待防止に向けて取り込んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員皆が理解しており、必要に応じて活用される方も利用者の中でのいます。制度を活用できるように、関係者と協力して支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所する前や改定時に十分な説明を行い、利用者や家族の不安、訴えを聞き、家族の理解、納得を得たうえで契約、または解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会のない方もあり、全員の意見は得られないが、家族会を開催したり、常に利用者、家族の声を聞き入れ、不満、苦情の声に対して解決出来るように努めている。また重要事項説明書には外部の相談機関への連絡先も明記している。	
			(外部評価) 年2回、もちつき大会やいちご狩り等の行事と一緒に家族会を開催したり、運営推進会議に家族に参加してもらって意見を表せる機会を設けている。また、家族面会時には声をかけて日頃の様子を伝え、意見や要望を聞くようにしている。遠方の家族には担当職員が手紙を書き、便りと一緒に送って様子を伝えている。苦情があった場合は職員で話し合い、対応策を考えた上で家族に返し、解決を図っている。	家族会に参加する家族が限られており、管理者は十分に家族の意見を聞くことができていないと感じている。現在の取組みを大切にしながら、家族同士が交流し、本音を言いやすいよう運営に工夫を加えることを期待したい。疎遠な家族には来訪時に写真やビデオ等で日常の様子を伝える工夫を行い、意思疎通を図ることを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 定期的に職員間のミーティング、勉強会を行い、職員個々の意見として、改善提案書などを書いてもらい、皆で検討して、改善に努めている。</p> <p>(外部評価) 毎月1回職員会を勉強会として開催しており、ケア内容についての意見や提案を述べる機会がある。運営に関する意見は、ユニットリーダーが改善提案書をまとめて報告し、職員会で検討している。また、女性は食事会を男性はマリンスポーツやビアガーデンを楽しみながら、代表者が職員の意見を聞く機会を設けている。法人内異動もあるが、外国人スタッフを含め幅広い年齢層の職員が良好なチームワークを構築している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員の個々の条件に応じ、勤務時間の調整、就業時間内勤務の徹底を行い各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 施設内では、毎月勉強会を開いたり、個々に応じ研修会へに参加を行ったり地域で行われる研修会への参加等を行っており、職員のスキル向上に努めている。職員が資格所得に努めている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 他のグループホーム企画するお茶会や祭り、運営推進会議の参加を行い、交流できる機会を持つと共に、ネットワーク作り相互訪問等活動を通じてサービスの向上に努めている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入所前に本人と面会し、困っている事、不安なこと、要望を傾聴し、よりお互いに信頼できる環境を作っている。利用者の声にできる限り答えられるように努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と同様に、事前によく話し合いを行い、困っている事、不安な事、要望を聞き入れ納得して頂いた上で信頼関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族に、事前によく話し合いを行い、必要に応じた対応ができる体制をとるようにしている。本人と家族の要望に違いがあったり、GHの入所とは違いのある場合は別のサービスがある事をお伝えし、相談に乗っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活を共にする中で、教えてもらったり、支援したりして喜怒哀楽を共感できる関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設の行事にも、家族の方に参加して頂き、利用者の方と一緒に楽しめる環境を作ると共に家族が困った時は、職員が協力をし、職員も家族に協力を依頼できる体制を作っている。毎月のお手紙で家族にその月の状況や、行ったことを報告し理解を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望を聞き入れ、馴染みの美容室へ行かれたり、近くのスーパーなどへ行き声をかけて頂いたりして馴染みの関係が途切れないように支援している。また個人的にもできる限り要望が叶えられるように支援している。 (外部評価) 入居時に、利用者が大切にしていた馴染みの場所や人等について情報を収集したり、入居後は日常の会話の中から汲みとったりしながら把握するよう努めている。旧北条市出身の利用者は、北条のだんじり祭りに参加して喜ばれた。また、近くのスーパーやコンビニに買い物に出かけて店員に顔を覚えてもらったり、毎月訪れる行商人や近所の人と新たな馴染みの関係ができています。	管理者は、墓参り等の個別の要望に応じて外出し、利用者が大切にしてきた馴染みの関係を継続できるよう支援したいと考えている。一人でも、また実行可能な事柄から、家族の協力を得て実現することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に全体の把握に努め、お互いの関係を考慮したレクリエーション活動への参加を働きかけ、孤立しない関係作りを行っているが、何かトラブルがある時は、職員が利用者の状態を理解し良い関わり合いが出来るように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されても関係が保たれているよう、ご家族と連絡を取り合ったりして、施設の行事等に快く来て下さり、一緒に参加されたりして、これまでの関係性を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人の思いや、希望を把握し、その思いに添えるその人らしい生活を送って頂けるよう取り込んでいる。 (外部評価) 職員は入浴介助時に「困っていることはないですか？」と声をかけ、ゆっくりと利用者が考えていることやどのようにして暮らしたいかという想いを聞き取るよう努めている。思いや意向を伝え難い利用者には、表情や行動から汲みとり把握している。利用者の希望に沿うよう、こだわりの化粧品を購入したり、日課として毎朝新聞を読むことができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、入所時にご家族様を交え、これまでの生活歴、好きな物等、情報収集を行い、入所されてからの生活に反映していけるように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活のレベルに応じて無理なく生活ができるようにしている。休みたいときはゆっくりして頂き、食事、入浴等、出来ることはして頂いている。またその日の細かな変化を早期発見し対応できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 計画担当者の指示のもと、関係する職員が集まり、その方であった介護計画を作成し、介護支援専門員と相談し、本人、家族、必要な方の声を聴き、より良い生活が出来るように計画作成している。状態の変化がある場合は計画の立て直しをしている。 (外部評価) 計画作成担当者が利用者と家族の意見や要望を踏まえて介護計画を作成し、毎月開催される勉強会で課題や方策について職員で話し合っ検討している。サービス担当者会議に家族が参加する場合もあり、思いを取り入れながら介護計画を完成させている。職員は介護計画を念頭においてケアを行い、1か月に1回モニタリングを実施している。介護計画は家族が面会に来訪した際に説明して同意を得ており、県外の家族へは個別に写真を添付して郵送し理解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果、気づきを個別に記録している。職員間で情報を共有し意見を出し、再アセスメントし介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況、その都度のニーズへの対応。一人一人にとって良い方法へのサービスを考慮し取り込んでいる。リハビリ室や特浴、畑や、愛犬の飼育等様々あり、個人の状態、要望に柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年間を通して地域の行事への参加、近くのお店への買い物、ボランティアなどの取り込みから体験し喜びや楽しみを感じ取ることが出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携関係にあり、必要に応じた受診を行って いる。本人及び、家族の意見や要望を尊重し、係りつけ医に よる継続的な医療を受けられるように支援している。	
			(外部評価) 全ての利用者が母体診療所の医師をかかりつけ医としてお り、月1回訪問診療と週1回訪問看護を受けることができ ている。職員として配置されている看護師とかかりつけ医が連 携して、日頃の健康管理と緊急時24時間対応を行っている ため、安心して適正な医療を受けることができる。専門科受 診についてはかかりつけ医の紹介状を持って職員が付き添っ て受診し、家族にも同行してもらっている。歯科医と心療内 科医の往診があり、利用者の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は常に利用者の変化を観察し、情報や気づきを看護 職員に報告、看護職員はその変化に対応し、医者との相談、 連携を行い必要時は受診や看護を受けられるように支援して いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された場合は、こまめに面会に行くなど、安 心して頂けるように対応し、家族と相談しながら、また早期 退院に向けて病院関係者（医師・看護師）との情報交換、相 談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所の前に終末期また重度化した場合についての話し合いを 行っており、職員全員に周知している。終末期のあり方につ いて、本人、家族の要望を聞き、施設でできることを医療機 関とも相談し、チーム全体で支援取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所では「看取りに関する指針」を作成し、充実した医療 体制のもと看取りに取り組んでいる。入居時に利用者と家族 に終末期ケアについて意向確認を行い、重度化した場合は、 医師を交えて話し合いながら支援している。職員はたん吸引 の研修を受けて看護技術の向上を図ったり、家族の了解を得 て医師が常時状況を把握できるよう監視カメラを設置して緊 急時への備えを行っている。職員は悔いを残さないよう、日 頃から精一杯の支援を行いたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に備えてその対応、対処法を定期的に講習し実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練、防災訓練を行っており、職員皆があらゆる方法を心得ている。消防署も近いので協力体制は出来ている。地域の方々にも避難訓練に参加して頂き、災害時の協力体制は整っている。 (外部評価) 年2回消防署立ち合いのもとで日中・夜間想定で避難訓練を実施している。車いすレベルの利用者は布団に包んで階下に搬送する等実践的な訓練を行っている。訓練には運営推進会議メンバーである近隣住民も参加しており、夜間緊急時は近くに住む職員が駆けつけるよう取り決めている。管理者は地区の防災士の任に就いており、地区防災訓練にも参加している。水や食料の備蓄品を用意し、食材担当者が賞味期限の点検をしている。	管理者は地域貢献の一環として、事業所を地域の一次避難所にすることを検討したいと考えている。運営推進会議で提案しつつ、地域住民や法人事業所との災害時協力体制について協議していくことを期待したい。また、それに伴い、現在の備蓄品の内容や数量が適切であるか見直すことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人一人の生活のレベルにおじて、入浴、排泄、食事等の介助を行っており。プライバシーを損ねないよう言葉かけ、呼び名、敬語等にも配慮している。 (外部評価) 職員は、利用者は人生の先輩であるという認識に立ち、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。トイレへ誘導する際はそれとなく行い、恥辱心に配慮している。呼称については名前にさん付けで呼ぶことを基本とし、過度に親しい呼び名を使用することを謹んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションを取りながら、利用者の表情や反応を観察し、その思いや希望を表せるような対応を心掛け、自分決定できるように働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常生活の中で、強制するのではなく、本人の希望を優先し、一人一人のペースを大切にし、本人の過ごしやすい環境作りを支援している。外出等も参加希望を聞き本人の意思を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれや身だしなみを通して、生活の中での楽しさを感じることが出来るよう、本人の好みを主にしながら支援している。本人の意思が聞けない場合は、家族から以前の好みを聞き、馴染みの装いが出来るよう心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の声を聞き、メニューの参考にし、また外食等を行い、食事を楽しんでもらえるよう、配慮している。また、準備や片付け等、出来る利用者には手伝っていただいている。 (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を立て、食材を購入して各ユニット毎で調理をしている。利用者は調理の様子を見たり匂いを感じることができ、適宜野菜の下ごしらえや下膳、食器拭き等できることを手伝っている。3ユニット合同で行われる誕生会には特別にちらし寿司や赤飯を炊き、ショートケーキを用意してお祝いしている。また、利用者の嚥下状態に合わせて食事形態を工夫し、必要な栄養が摂れるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の摂取量、水分出納量を把握し、1日量を確保できるように支援している。一人一人に応じて刻み食や補助食品を提供したり、水分も摂取しやすいように提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人一人の口腔所内に応じ口腔ケアを毎食行っている。一人で出来ない方は介助して行い、自分で出来る方は見守りで対応している。義歯を使用しているは、義歯用歯ブラシを使用し、週2回定期的に消毒を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 一人一人の排泄パターンを排泄チェック表を用いて職員皆が把握し出来るだけトイレでの排泄が出来るように、個々に合わせた誘導、声掛けを行い、自立に向けた支援を行っている。尿意、便意の訴えの出来ない利用者については、定期的に確認し交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 職員は排泄シートに記録して一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、トイレで排泄ができるよう支援している。使用する排泄用品について必要に応じて話し合って検討し、状態に合わせたものを使用するよう考慮している。夜間は睡眠を妨げないよう考えており、夜間帯の尿量を測定して把握し、一人ひとりに適した排泄用品を選択している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘に関する理解は皆周知しており、個々の便秘の原因を確認し、食事メニューの検討、水分、散歩やリハビリ、運動などを行い、便秘予防に取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴日は決まっているが、一人一人の希望、タイミングは出来るだけ合わすように配慮している。また気持ちの良い入浴が楽しめるように心がけている。</p> <p>(外部評価) 一般家庭浴槽に週3回を基本に入浴している。立位が困難な利用者用に特殊浴槽が設置されており、2人体制で介助している。脱衣室には暖房器具を置いて急な温度差がないよう配慮されている。入浴が苦手な利用者は、声かけを工夫したり日を変える等して、無理強いをしないよう考慮して支援している。また、入浴中は会話や、歌が好きな利用者は気持ち良く歌を唄って入浴を楽しんでもらっている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 個々の意見を尊重し、ゆっくり過ごせる自由な時間を設けている。必要な休息、睡眠を支援している。就寝時間も本人の希望に合わせて声かけ、誘導を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬のマニュアルを作成し、職員に皆が周知しており、利用者の処方薬について、目的、副作用は理解している。自力で服薬できない方は介助している。症状に変化がみられた場合は、主治医と相談しその症状に応じた対応が出来るように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の出来ること、出来ないこと把握しており、簡単な役割を持っていただくことにより、生活に張りを持っていただいている。個々に応じカラオケをしたり、カルタ、オセロをしたり、気分転換を図れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日状態、状況に応じ散歩、買い物などの気分転換を行っている。また外出場合は、それぞれの希望を聞きは配慮したうえで計画している。地域交流会などにも参加したりしている。 (外部評価) 天気の良い日は、近くの公園に散歩に出かけたり、職員の買い物に同行している。また、敷地内に広々とした菜園があり、散歩をしたり日光浴を楽しむことができる。犬小屋やベンチがあって近隣住民も立ち寄ることがあり交流の場ともなっている。法人が所有するマイクロバスやリフトバスに乗ってぶどうやいちご狩りに出かけたり、回転寿司等の外食を楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、欲しいものがあれば購入できるように支援している。現在はお金は施設管理にしており自分で所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の制限がない限り、本人の希望に応じて電話や気持ちの伝達など、そのと配慮して支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレには芳香剤を設置し、汚染時は速やかに消毒、掃除を行っている。湿度、温度、明るさなどの環境整備を配慮し、季節の花を飾ったり、金魚を飼ったりして、生活感、季節感が感じられ、居心地良く過ごせる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 各ユニットの中央にオープンキッチンのあるリビングがあり、椅子席とソファ席が設けられており、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。玄関やユニット入り口には職員が持ってきた生花が飾られており、季節を感じるができる。また、水槽を置いて金魚を飼い利用者が世話をしているユニットもある。階下に広いリハビリ室が設けられ、機能訓練や医師の指示による物理療法を受けることができ、利用者が意欲的に活用している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビング、居室等、自由に過ごして頂いている。利用者同士仲の良い方は近くで過ごせるような工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所の際は、本人の馴染みの物の持ち込みをお願いしており、本人がなるべく抵抗なく生活して頂けるような環境作りを行い、本人が居心地良く過ごせるような工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室はエアコンとベッド、整理ダンス、寝具が備えつけられており、各部屋に温度計を設置して室温管理を行っている。利用者は自宅からテレビや椅子、大切にしていた日本人形等を持ち込み、孫やひ孫、家族の写真を飾って個性的な部屋になっている。中にはお位牌を置いてお供えをしている利用者もいる。季節毎の寝具や衣類の交換は家族が行っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 生活の中で、歩行器やシルバーカーを使用し自立した歩行ができるように環境整備し転倒防止に努めている。また、安心して自立した生活が送れるようにトイレ誘導用の張り紙等、工夫している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103250
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス馬木
所在地	松山市馬木町2174番町
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 10月 31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設には充実したリハビリ機器があり、利用者の皆様には、個別に応じて起立運動・滑車・電気治療等のリハビリメニューがあり。出来る限り毎日継続して行って頂いている。リハビリを行うことにより、筋力・上下肢維持・向上に努めている。またリハビリ毎日継続して行うことで生活に張りが出て意欲の向上につなげている。また地域・施設の行事の参加することで、地域の方々との交流を図っている。季節感を味わっていただけるように、毎月、外出、外食を計画し取り組んでいる。また誕生日会では、職員が出し物をしたり、ボランティアの慰問を依頼するなどして利用者さんに楽しい時間を過ごして頂ける様支援している。今後は、より一層、地域の方々との交流、関係が築ける様に、施設が地域に出来る役割を見つけて発信していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に手入れの行き届いた広大な畑がある事業所は、閑静な住宅地に立地しており、「その人らしく、地域の中で共に暮らす」という理念を掲げて、地域に溶け込み、地域の支えの中で暮らしている。職員は秋祭りで地区の神輿を担ぎ、市民大清掃や地区運動会、防災訓練に住民として参加している。運営推進会議には地区の多様な関係者が集まり充実した協議がなされ、サービスの向上に反映させている。毎月訪れる物産品やたこ焼きの行商は利用者の楽しみでもあり、近所の住民も買物に訪れて交流の機会になっている。また、母体法人が医療機関で、日常的な健康管理と緊急時24時間医療体制が整備され、利用者や家族のみでなく職員にとっても安心感がある。中高年齢層の職員は毎月勉強会を開催しながら研鑽に努め、結束したチームワークで難局を乗り越えた経験を持っており、今後さらに地域貢献や利用者個人の希望を実現する個別ケアの充実を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス馬木

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 菅谷 誠

評価完了日 平成 28 年 10 月 5 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域の中で共に、地域の方々と暮らしていける事、その人らしい生活が送れることを理念にあげ、職員全員が理念を共有し、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 職員は、「その人らしく、地域の中で共に暮らす」という理念を継承し、地域行事に積極的に参加する等、地域とのつきあいを大切にしている。また、利用者がその人らしく暮らしていけるよう、一人ひとりをよく理解して個別ケアに努めている。理念は玄関やユニットに掲示して周知し、毎年振り返りを行って職員間で共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事(夏祭り、秋祭り、運動会、掃除、防災訓練等)に参加し、また施設の行事にも地域の方々に声をかけ参加して頂き、地域と施設(利用者)のつながり、関わりを大切にしている。散歩時の挨拶、会話の中でも、地域との交流は日常的に出来ている。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入しており、回覧板を通して地域行事の情報を得て積極的に参加している。地区の祭りでは職員が神輿を担いだり、綿菓子やポップコーンを販売して喜ばれている。利用者も地区運動会の宝さがしに参加して地域の人と交流して楽しんでいる。また、ボランティアや保育園児が訪れ、交流の機会がある。事業所の敷地には広大な畑があり、近所の人々が畑指導をしたり、散歩中立ち寄ってベンチで休憩することもあり開放的である。物産品の行商が訪れた際は近所の人も来訪して顔馴染みになっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的開催している運営推進会議や講習会の中で、認知症の人の理解や支援方法を伝達、報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月毎の運営推進会議に、町内会長や公民館長、民生委員、介護保険課、地域の駐在委さん、他のグループホームの方、また家族の方にも参加して頂いており、利用者やサービスの実績、評価への取り組みとその結果についても報告を行い、地域の方、他のGHの方の意見を取り入れ、サービス向上に生かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、老人クラブや町内会長、公民館長、駐在所警察官等多様な方々の参加を得て2か月に1回開催している。会議では、利用者の状況や活動報告のほか、担当職員が研修報告を行い、参加者全員が意見を述べられるよう工夫して運営している。管理者は参加者と親密な関係ができ、事業所の理解が進んでいると感じており、事業所として地域に貢献できることはないか考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 介護保険課の方、地域包括の方に運営推進会議等に参加して頂き、新しい情報を提供して頂きながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 市担当課職員や地域包括支援センター職員は、運営推進会議に参加して事業所の状況を把握し、情報の提供や助言を行っている。生活福祉課職員とも連携しながら利用者の支援にあたっている。また、地域包括支援センターで開催する研修会に参加して他事業所と情報交換を行うなどの交流がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてのマニュアルを作成し職員全員が十分に理解をした上で、身体拘束をしないケアに取り込んでいる。危険を伴う方については事前にご家族へ十分な説明を行い、了解を頂いた上で、期間を決めて実践している。玄関の施錠は、防犯対策として夜間のみ施錠している。	
			(外部評価) マニュアルを作成し、年1回法人内研修のテーマとして取り上げて職員全員が学ぶ機会を持っている。日中玄関は常時開放されており、利用者は自由に出入りすることができる。管理者は、言葉による拘束について職員にその都度伝え、注意を促すように努めている。医療処置を必要とする利用者もおり、危険な行為が予測される場合は家族に説明して理解を得、短期間拘束を行うことがある。人形を抱いてもらう等の工夫をして、拘束をしないに対応する場合もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について職員は皆周知しており、勉強会などで再確認する機会を待ち、身体的、精神的虐待防止に向けて取り込んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員皆が理解しており、必要に応じて活用される方も利用者の中でのいます。制度を活用できるように、関係者と協力して支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所する前や改定時に十分な説明を行い、利用者や家族の不安、訴えを聞き、家族の理解、納得を得たうえで契約、または解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会のない方もあり、全員の意見は得られないが、家族会を開催したり、常に利用者、家族の声を聞き入れ、不満、苦情の声に対して解決出来るように努めている。また重要事項説明書には外部の相談機関への連絡先も明記している。 (外部評価) 年2回、もちつき大会やいちご狩り等の行事と一緒に家族会を開催したり、運営推進会議に家族に参加してもらって意見を表せる機会を設けている。また、家族面会時には声をかけて日頃の様子を伝え、意見や要望を聞くようにしている。遠方の家族には担当職員が手紙を書き、便りと一緒に送って様子を伝えている。苦情があった場合は職員で話し合い、対応策を考えた上で家族に返し、解決を図っている。	家族会に参加する家族が限られており、管理者は十分に家族の意見を聞くことができていないと感じている。現在の取組みを大切にしながら、家族同士が交流し、本音を言いやすいよう運営に工夫を加えることを期待したい。疎遠な家族には来訪時に写真やビデオ等で日常の様子を伝える工夫を行い、意思疎通を図ることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に職員間のミーティング、勉強会を行い、職員個々の意見として、改善提案書などを書いてもらい、皆で検討して、改善に努めている。	
			(外部評価) 毎月1回職員会を勉強会として開催しており、ケア内容についての意見や提案を述べる機会がある。運営に関する意見は、ユニットリーダーが改善提案書をまとめて報告し、職員会で検討している。また、女性は食事会を男性はマリンスポーツやビアガーデンを楽しみながら、代表者が職員の意見を聞く機会を設けている。法人内異動もあるが、外国人スタッフを含め幅広い年齢層の職員が良好なチームワークを構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の個々の条件に応じ、勤務時間の調整、就業時間内勤務の徹底を行い各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内では、毎月勉強会を開いたり、個々に応じ研修会へに参加を行ったり地域で行われる研修会への参加等を行っており、職員のスキル向上に努めている。職員が資格所得に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のグループホーム企画するお茶会や祭り、運営推進会議の参加を行い、交流できる機会を持つと共に、ネットワーク作り相互訪問等活動を通じてサービスの向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に本人と面会し、困っている事、不安なこと、要望を傾聴し、よりお互いに信頼できる環境を作っている。利用者の声にできる限り答えられるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と同様に、事前によく話し合いを行い、困っている事、不安な事、要望を聞き入れ納得して頂いた上で信頼関係作り に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族に、事前によく話し合いを行い、必要に応じた対応ができる体制をとるようにしている。本人と家族の要望に違いがあったり、GHの入所とは違いのある場合は別のサービスがある事をお伝えし、相談に乗っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活を共にする中で、教えてもらったり、支援したりして喜怒哀楽を共感できる関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設の行事にも、家族の方に参加して頂き、利用者の方と一緒に楽しめる環境を作ると共に家族が困った時は、職員が協力をし、職員も家族に協力を依頼できる体制を作っている。毎月のお手紙で家族にその月の状況や、行ったことを報告し理解を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望を聞き入れ、馴染みの美容室へ行かれたり、近くのスーパーなどへ行き声をかけて頂いたりして馴染みの関係が途切れないように支援している。また個人的にもできる限り要望が叶えられるように支援している。 (外部評価) 入居時に、利用者が大切にしていた馴染みの場所や人等について情報を収集したり、入居後は日常の会話の中から汲みとったりしながら把握するよう努めている。旧北条市出身の利用者は、北条のだんじり祭りに参加して喜ばれた。また、近くのスーパーやコンビニに買い物に出かけて店員に顔を覚えてもらったり、毎月訪れる行商人や近所の人と新たな馴染みの関係ができています。	管理者は、墓参り等の個別の要望に応じて外出し、利用者が大切にしてきた馴染みの関係を継続できるよう支援したいと考えている。一人でも、また実行可能な事柄から、家族の協力を得て実現することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に全体の把握に努め、お互いの関係を考慮したレクリエーション活動への参加を働きかけ、孤立しない関係作りを行っているが、何かトラブルがある時は、職員が利用者の状態を理解し良い関わり合いが出来るように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されても関係が保たれているよう、ご家族と連絡を取り合ったりして、施設の行事等に快く来て下さり、一緒に参加されたりして、これまでの関係性を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人の思いや、希望を把握し、その思いに添えるその人らしい生活を送って頂けるよう取り込んでいる。 (外部評価) 職員は入浴介助時に「困っていることはないですか？」と声をかけ、ゆっくりと利用者が考えていることやどのようにして暮らしたいかという想いを聞き取るよう努めている。思いや意向を伝え難い利用者には、表情や行動から汲みとり把握している。利用者の希望に沿うよう、こだわりの化粧品を購入したり、日課として毎朝新聞を読むことができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、入所時にご家族様を交え、これまでの生活歴、好きな物等、情報収集を行い、入所されてからの生活に反映していけるように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活のレベルに応じて無理なく生活ができるようにしている。休みたいときはゆっくりして頂き、食事、入浴等、出来ることはして頂いている。またその日の細かな変化を早期発見し対応できるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 計画担当者の指示のもと、関係する職員が集まり、その方であった介護計画を作成し、介護支援専門員と相談し、本人、家族、必要な方の声を聴き、より良い生活が出来るように計画作成している。状態の変化がある場合は計画の立て直しをしている。 (外部評価) 計画作成担当者が利用者と家族の意見や要望を踏まえて介護計画を作成し、毎月開催される勉強会で課題や方策について職員で話し合っ検討している。サービス担当者会議に家族が参加する場合もあり、思いを取り入れながら介護計画を完成させている。職員は介護計画を念頭においてケアを行い、1か月に1回モニタリングを実施している。介護計画は家族が面会に来訪した際に説明して同意を得ており、県外の家族へは個別に写真を添付して郵送し理解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果、気づきを個別に記録している。職員間で情報を共有し意見を出し、再アセスメントし介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況、その都度のニーズへの対応。一人一人にとって良い方法へのサービスを考慮し取り込んでいる。リハビリ室や特浴、畑や、愛犬の飼育等様々あり、個人の状態、要望に柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年間を通して地域の行事への参加、近くのお店への買い物、ボランティアなどの取り込みから体験し喜びや楽しみを感じ取ることが出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携関係にあり、必要に応じた受診を行って いる。本人及び、家族の意見や要望を尊重し、係りつけ医に よる継続的な医療を受けられるように支援している。	
			(外部評価) 全ての利用者が母体診療所の医師をかかりつけ医としてお り、月1回訪問診療と週1回訪問看護を受けることができ ている。職員として配置されている看護師とかかりつけ医が連 携して、日頃の健康管理と緊急時24時間対応を行っている ため、安心して適正な医療を受けることができる。専門科受 診についてはかかりつけ医の紹介状を持って職員が付き添っ て受診し、家族にも同行してもらっている。歯科医と心療内 科医の往診があり、利用者の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は常に利用者の変化を観察し、情報や気づきを看護 職員に報告、看護職員はその変化に対応し、医者との相談、 連携を行い必要時は受診や看護を受けられるように支援して いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された場合は、こまめに面会に行くなど、安 心して頂けるように対応し、家族と相談しながら、また早期 退院に向けて病院関係者（医師・看護師）との情報交換、相 談を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所の前に終末期また重度化した場合についての話し合いを 行っており、職員全員に周知している。終末期のあり方につ いて、本人、家族の要望を聞き、施設でできることを医療機 関とも相談し、チーム全体で支援取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所では「看取りに関する指針」を作成し、充実した医療 体制のもと看取りに取り組んでいる。入居時に利用者と家族 に終末期ケアについて意向確認を行い、重度化した場合は、 医師を交えて話し合いながら支援している。職員はたん吸引 の研修を受けて看護技術の向上を図ったり、家族の了解を得 て医師が常時状況を把握できるよう監視カメラを設置して緊 急時への備えを行っている。職員は悔いを残さないよう、日 頃から精一杯の支援を行いたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に備えてその対応、対処法を定期的に講習し実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練、防災訓練を行っており、職員皆があらゆる方法を心得ている。消防署も近いので協力体制は出来ている。地域の方々にも避難訓練に参加して頂き、災害時の協力体制は整っている。 (外部評価) 年2回消防署立ち合いのもとで日中・夜間想定で避難訓練を実施している。車いすレベルの利用者は布団に包んで階下に搬送する等実践的な訓練を行っている。訓練には運営推進会議メンバーである近隣住民も参加しており、夜間緊急時は近くに住む職員が駆けつけるよう取り決めている。管理者は地区の防災士の任に就いており、地区防災訓練にも参加している。水や食料の備蓄品を用意し、食材担当者が賞味期限の点検をしている。	管理者は地域貢献の一環として、事業所を地域の一次避難所にすることを検討したいと考えている。運営推進会議で提案しつつ、地域住民や法人事業所との災害時協力体制について協議していくことを期待したい。また、それに伴い、現在の備蓄品の内容や数量が適切であるか見直すことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人一人の生活のレベルにおじて、入浴、排泄、食事等の介助を行っており。プライバシーを損ねないよう言葉かけ、呼び名、敬語等にも配慮している。 (外部評価) 職員は、利用者は人生の先輩であるという認識に立ち、誇りやプライバシーを損なわないよう努めている。トイレへ誘導する際はそれとなく行き、恥辱心に配慮している。呼称については名前にさん付けで呼ぶことを基本とし、過度に親しい呼び名を使用することを謹んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションを取りながら、利用者の表情や反応を観察し、その思いや希望を表せるような対応を心掛け、自分決定できるように働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常生活の中で、強制するのではなく、本人の希望を優先し、一人一人のペースを大切にし、本人の過ごしやすい環境作りを支援している。外出等も参加希望を聞き本人の意思を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれや身だしなみを通して、生活の中での楽しさを感じることが出来るよう、本人の好みを主にしながら支援している。本人の意思が聞けない場合は、家族から以前の好みを聞き、馴染みの装いが出来るよう心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の声を聞き、メニューの参考にし、また外食等を行い、食事を楽しんでもらえるよう、配慮している。また、準備や片付け等、出来る利用者には手伝っていただいている。 (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を立て、食材を購入して各ユニット毎で調理をしている。利用者は調理の様子を見たり匂いを感じることができ、適宜野菜の下ごしらえや下膳、食器拭き等できることを手伝っている。3ユニット合同で行われる誕生会には特別にちらし寿司や赤飯を炊き、ショートケーキを用意してお祝いしている。また、利用者の嚥下状態に合わせて食事形態を工夫し、必要な栄養が摂れるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の摂取量、水分出納量を把握し、1日量を確保できるように支援している。一人一人に応じて刻み食や補助食品を提供したり、水分も摂取しやすいように提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人一人の口腔所内に応じ口腔ケアを毎食行っている。一人で出来ない方は介助して行い、自分で出来る方は見守りで対応している。義歯を使用しているは、義歯用歯ブラシを使用し、週2回定期的に消毒を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを排泄チェック表を用いて職員皆が把握し出来るだけトイレでの排泄が出来るように、個々に合わせた誘導、声掛けを行い、自立に向けた支援を行っている。尿意、便意の訴えの出来ない利用者については、定期的に確認し交換を行っている。	
			(外部評価) 職員は排泄シートに記録して一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、トイレで排泄ができるよう支援している。使用する排泄用品について必要に応じて話し合って検討し、状態に合わせたものを使用するよう考慮している。夜間は睡眠を妨げないように考えており、夜間帯の尿量を測定して把握し、一人ひとりに適した排泄用品を選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘に関する理解は皆周知しており、個々の便秘の原因を確認し、食事メニューの検討、水分、散歩やリハビリ、運動などを行い、便秘予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決まっているが、一人一人の希望、タイミングは出来るだけ合やすように配慮している。また気持ちの良い入浴が楽しめるように心がけている。	
			(外部評価) 一般家庭浴槽に週3回を基本に入浴している。立位が困難な利用者用に特殊浴槽が設置されており、2人体制で介助している。脱衣室には暖房器具を置いて急な温度差がないよう配慮されている。入浴が苦手な利用者は、声かけを工夫したり日を変える等して、無理強いをしないよう考慮して支援している。また、入浴中は会話や、歌が好きな利用者は気持ち良く歌を唄って入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の意見を尊重し、ゆっくり過ごせる自由な時間を設けている。必要な休息、睡眠を支援している。就寝時間も本人の希望に合わせて声かけ、誘導を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬のマニュアルを作成し、職員に皆が周知しており、利用者の処方薬について、目的、副作用は理解している。自力で服薬できない方は介助している。症状に変化がみられた場合は、主治医と相談しその症状に応じた対応が出来るように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の出来ること、出来ないこと把握しており、簡単な役割を持っていただくことにより、生活に張りを持っていただいている。個々に応じカラオケをしたり、カルタ、オセロをしたり、気分転換を図れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日状態、状況に応じ散歩、買い物などの気分転換を行っている。また外出場合は、それぞれの希望を聞きは配慮したうえで計画している。地域交流会などにも参加したりしている。 (外部評価) 天気の良い日は、近くの公園に散歩に出かけたり、職員の買い物に同行している。また、敷地内に広々とした菜園があり、散歩をしたり日光浴を楽しむことができる。犬小屋やベンチがあって近隣住民も立ち寄ることがあり交流の場ともなっている。法人が所有するマイクロバスやリフトバスに乗ってぶどうやいちご狩りに出かけたり、回転寿司等の外食を楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、欲しいものがあれば購入できるように支援している。現在はお金は施設管理にしており自分で所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の制限がない限り、本人の希望に応じて電話や気持ちの伝達など、そのと配慮して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレには芳香剤を設置し、汚染時は速やかに消毒、掃除を行っている。湿度、温度、明るさなどの環境整備を配慮し、季節の花を飾ったり、金魚を飼ったりして、生活感、季節感が感じられ、居心地良く過ごせる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 各ユニットの中央にオープンキッチンのあるリビングがあり、椅子席とソファ席が設けられており、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。玄関やユニット入り口には職員が持ってきた生花が飾られており、季節を感じるができる。また、水槽を置いて金魚を飼い利用者が世話をしているユニットもある。階下に広いリハビリ室が設けられ、機能訓練や医師の指示による物理療法を受けることができ、利用者が意欲的に活用している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビング、居室等、自由に過ごして頂いている。利用者同士仲の良い方は近くで過ごせるような工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所の際は、本人の馴染みの物の持ち込みをお願いしており、本人がなるべく抵抗なく生活して頂けるような環境作りを行い、本人が居心地良く過ごせるような工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室はエアコンとベッド、整理ダンス、寝具が備えつけられており、各部屋に温度計を設置して室温管理を行っている。利用者は自宅からテレビや椅子、大切にしていた日本人形等を持ち込み、孫やひ孫、家族の写真を飾って個性的な部屋になっている。中にはお位牌を置いてお供えをしている利用者もいる。季節毎の寝具や衣類の交換は家族が行っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 生活の中で、歩行器やシルバーカーを使用し自立した歩行ができるように環境整備し転倒防止に努めている。また、安心して自立した生活が送れるようにトイレ誘導用の張り紙等、工夫している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103250
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス馬木
所在地	松山市馬木町2174番町
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28年 10月 31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設には充実したリハビリ機器があり、利用者の皆様には、個別に応じて起立運動・滑車・電気治療等のリハビリメニューがあり、出来る限り毎日継続して行って頂いている。リハビリを行うことにより、筋力・上下肢維持・向上に努めている。またリハビリ毎日継続して行うことで生活に張りが出て意欲の向上につながっている。また地域・施設の行事の参加することで、地域の方々との交流を図っている。季節感を味わっていただけるように、毎月、外出、外食を計画し取り組んでいる。また誕生日会では、職員が出し物をしたり、ボランティアの慰問を依頼するなどして利用者さんに楽しい時間を過ごして頂ける様支援している。今後は、より一層、地域の方々との交流、関係が築ける様に、施設が地域に出来る役割を見つけて発信していきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に手入れの行き届いた広大な畑がある事業所は、閑静な住宅地に立地しており、「その人らしく、地域の中で共に暮らす」という理念を掲げて、地域に溶け込み、地域の支えの中で暮らしている。職員は秋祭りや地区の神輿を担ぎ、市民大清掃や地区運動会、防災訓練に住民として参加している。運営推進会議には地区の多様な関係者が集まり充実した協議がなされ、サービスの向上に反映させている。毎月訪れる物産品やたこ焼きの行商は利用者の楽しみでもあり、近所の住民も買物に訪れて交流の機会になっている。また、母体法人が医療機関で、日常的な健康管理と緊急時24時間医療体制が整備され、利用者や家族のみでなく職員にとっても安心感がある。中高年齢層の職員は毎月勉強会を開催しながら研鑽に努め、結束したチームワークで難局を乗り越えた経験を持っており、今後さらに地域貢献や利用者個人の希望を実現する個別ケアの充実を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス馬木

(ユニット名) Cユニット

記入者(管理者)

氏名 菅谷 誠

評価完了日 平成 28 年 10 月 5 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域の中で共に、地域の方々と暮らしていける事、その人らしい生活が送れることを理念にあげ、職員全員が理念を共有し、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 職員は、「その人らしく、地域の中で共に暮らす」という理念を継承し、地域行事に積極的に参加する等、地域とのつきあいを大切にしている。また、利用者がその人らしく暮らしていけるよう、一人ひとりをよく理解して個別ケアに努めている。理念は玄関やユニットに掲示して周知し、毎年振り返りを行って職員間で共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事(夏祭り、秋祭り、運動会、掃除、防災訓練等)に参加し、また施設の行事にも地域の方々に声をかけ参加して頂き、地域と施設(利用者)のつながり、関わりを大切にしている。散歩時の挨拶、会話の中でも、地域との交流は日常的に出来ている。</p> <p>(外部評価) 町内会に加入しており、回覧板を通して地域行事の情報を得て積極的に参加している。地区の祭りでは職員が神輿を担いだり、綿菓子やポップコーンを販売して喜ばれている。利用者も地区運動会の宝さがしに参加して地域の人と交流して楽しんでいる。また、ボランティアや保育園児が訪れ、交流の機会がある。事業所の敷地には広大な畑があり、近所の人々が畑指導をしたり、散歩中立ち寄ってベンチで休憩することもあり開放的である。物産品の行商が訪れた際は近所の人も来訪して顔馴染みになっている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的開催している運営推進会議や講習会の中で、認知症の人の理解や支援方法を伝達、報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月毎の運営推進会議に、町内会長や公民館長、民生委員、介護保険課、地域の駐在委さん、他のグループホームの方、また家族の方にも参加して頂いており、利用者やサービスの実際、評価への取り組みとその結果についても報告を行い、地域の方、他のGHの方の意見を取り入れ、サービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、利用者や家族、老人クラブや町内会長、公民館長、駐在所警察官等多様な方々の参加を得て2か月に1回開催している。会議では、利用者の状況や活動報告のほか、担当職員が研修報告を行い、参加者全員が意見を述べられるよう工夫して運営している。管理者は参加者と親密な関係ができ、事業所の理解が進んでいると感じており、事業所として地域に貢献できることはないか考えている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護保険課の方、地域包括の方に運営推進会議等に参加して頂き、新しい情報を提供して頂きながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 市担当課職員や地域包括支援センター職員は、運営推進会議に参加して事業所の状況を把握し、情報の提供や助言を行っている。生活福祉課職員とも連携しながら利用者の支援にあたっている。また、地域包括支援センターで開催する研修会に参加して他事業所と情報交換を行うなどの交流がある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束についてのマニュアルを作成し職員全員が十分に理解をした上で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。危険を伴う方については事前にご家族へ十分な説明を行い、了解を頂いた上で、期間を決めて実践している。玄関の施錠は、防犯対策として夜間のみ施錠している。</p> <p>(外部評価) マニュアルを作成し、年1回法人内研修のテーマとして取り上げて職員全員が学ぶ機会を持っている。日中玄関は常時開放されており、利用者は自由に出入りすることができる。管理者は、言葉による拘束について職員にその都度伝え、注意を促すように努めている。医療処置を必要とする利用者もおり、危険な行為が予測される場合は家族に説明して理解を得、短期間拘束を行うことがある。人形を抱いてもらう等の工夫をして、拘束をしないで対応する場合もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について職員は皆周知しており、勉強会などで再確認する機会を待ち、身体的、精神的虐待防止に向けて取り込んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員皆が理解しており、必要に応じて活用される方も利用者の中でのいます。制度を活用できるように、関係者と協力して支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所する前や改定時に十分な説明を行い、利用者や家族の不安、訴えを聞き、家族の理解、納得を得たうえで契約、または解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会のない方もあり、全員の意見は得られないが、家族会を開催したり、常に利用者、家族の声を聞き入れ、不満、苦情の声に対して解決出来るように努めている。また重要事項説明書には外部の相談機関への連絡先も明記している。	
			(外部評価) 年2回、もちつき大会やいちご狩り等の行事と一緒に家族会を開催したり、運営推進会議に家族に参加してもらって意見を表せる機会を設けている。また、家族面会時には声をかけて日頃の様子を伝え、意見や要望を聞くようにしている。遠方の家族には担当職員が手紙を書き、便りと一緒に送って様子を伝えている。苦情があった場合は職員で話し合い、対応策を考えた上で家族に返し、解決を図っている。	家族会に参加する家族が限られており、管理者は十分に家族の意見を聞くことができていないと感じている。現在の取組みを大切にしながら、家族同士が交流し、本音を言いやすいよう運営に工夫を加えることを期待したい。疎遠な家族には来訪時に写真やビデオ等で日常の様子を伝える工夫を行い、意思疎通を図ることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に職員間のミーティング、勉強会を行い、職員個々の意見として、改善提案書などを書いてもらい、皆で検討して、改善に努めている。 (外部評価) 毎月1回職員会を勉強会として開催しており、ケア内容についての意見や提案を述べる機会がある。運営に関する意見は、ユニットリーダーが改善提案書をまとめて報告し、職員会で検討している。また、女性は食事会を男性はマリンスポーツやビアガーデンを楽しみながら、代表者が職員の意見を聞く機会を設けている。法人内異動もあるが、外国人スタッフを含め幅広い年齢層の職員が良好なチームワークを構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の個々の条件に応じ、勤務時間の調整、就業時間内勤務の徹底を行い各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内では、毎月勉強会を開いたり、個々に応じ研修会へに参加を行ったり地域で行われる研修会への参加等を行っており、職員のスキル向上に努めている。職員が資格所得に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のグループホーム企画するお茶会や祭り、運営推進会議の参加を行い、交流できる機会を持つと共に、ネットワーク作り相互訪問等活動を通じてサービスの向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に本人と面会し、困っている事、不安なこと、要望を傾聴し、よりお互いに信頼できる環境を作っている。利用者の声にできる限り答えられるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と同様に、事前によく話し合いを行い、困っている事、不安な事、要望を聞き入れ納得して頂いた上で信頼関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族に、事前によく話し合いを行い、必要に応じた対応ができる体制をとるようにしている。本人と家族の要望に違いがあったり、GHの入所とは違いのある場合は別のサービスがある事をお伝えし、相談に乗っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活を共にする中で、教えてもらったり、支援したりして喜怒哀楽を共感できる関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設の行事にも、家族の方に参加して頂き、利用者の方と一緒に楽しめる環境を作ると共に家族が困った時は、職員が協力をし、職員も家族に協力を依頼できる体制を作っている。毎月のお手紙で家族にその月の状況や、行ったことを報告し理解を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望を聞き入れ、馴染みの美容室へ行かれたり、近くのスーパーなどへ行き声をかけて頂いたりして馴染みの関係が途切れないように支援している。また個人的にもできる限り要望が叶えられるように支援している。 (外部評価) 入居時に、利用者が大切にしていた馴染みの場所や人等について情報を収集したり、入居後は日常の会話の中から汲みとったりしながら把握するよう努めている。旧北条市出身の利用者は、北条のだんじり祭りに参加して喜ばれた。また、近くのスーパーやコンビニに買い物に出かけて店員に顔を覚えてもらったり、毎月訪れる行商人や近所の人と新たな馴染みの関係ができている。	管理者は、墓参り等の個別の要望に応じて外出し、利用者が大切にしてきた馴染みの関係を継続できるよう支援したいと考えている。一人でも、また実行可能な事柄から、家族の協力を得て実現することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に全体の把握に努め、お互いの関係を考慮したレクリエーション活動への参加を働きかけ、孤立しない関係作りを行っているが、何かトラブルがある時は、職員が利用者の状態を理解し良い関わり合いが出来るように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されても関係が保たれているよう、ご家族と連絡を取り合ったりして、施設の行事等に快く来て下さり、一緒に参加されたりして、これまでの関係性を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人の思いや、希望を把握し、その思いに添えるその人らしい生活を送って頂けるよう取り込んでいる。 (外部評価) 職員は入浴介助時に「困っていることはないですか？」と声をかけ、ゆっくりと利用者が考えていることやどのようにして暮らしたいかという想いを聞き取るよう努めている。思いや意向を伝え難い利用者には、表情や行動から汲みとり把握している。利用者の希望に沿うよう、こだわりの化粧品を購入したり、日課として毎朝新聞を読むことができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、入所時にご家族様を交え、これまでの生活歴、好きな物等、情報収集を行い、入所されてからの生活に反映していけるように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人一人の生活のレベルに応じて無理なく生活ができるようにしている。休みたいときはゆっくりして頂き、食事、入浴等、出来ることはして頂いている。またその日の細かな変化を早期発見し対応できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 計画担当者の指示のもと、関係する職員が集まり、その方にあつた介護計画を作成し、介護支援専門員と相談し、本人、家族、必要な方の声を聴き、より良い生活が出来るように計画作成している。状態の変化がある場合は計画の立て直しをしている。</p> <p>(外部評価) 計画作成担当者が利用者と家族の意見や要望を踏まえて介護計画を作成し、毎月開催される勉強会で課題や方策について職員で話し合つて検討している。サービス担当者会議に家族が参加する場合もあり、思いを取り入れながら介護計画を完成させている。職員は介護計画を念頭においてケアを行い、1か月に1回モニタリングを実施している。介護計画は家族が面会に来訪した際に説明して同意を得ており、県外の家族へは個別に写真を添付して郵送し理解を得ている。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果、気づきを個別に記録している。職員間で情報を共有し意見を出し、再アセスメントし介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人や家族の状況、その都度のニーズへの対応。一人一人にとって良い方法へのサービスを考慮し取り込んでいる。リハビリ室や特浴、畑や、愛犬の飼育等様々あり、個人の状態、要望に柔軟に対応している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 年間を通して地域の行事への参加、近くのお店への買い物、ボランティアなどの取り込みから体験し喜びや楽しみを感じ取ることが出来ている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 協力医療機関と連携関係にあり、必要に応じた受診を行って いる。本人及び、家族の意見や要望を尊重し、係りつけ医に よる継続的な医療を受けられるように支援している。</p> <p>(外部評価) 全ての利用者が母体診療所の医師をかかりつけ医としてお り、月1回訪問診療と週1回訪問看護を受けることができ ている。職員として配置されている看護師とかかりつけ医が連 携して、日頃の健康管理と緊急時24時間対応を行っている ため、安心して適正な医療を受けることができる。専門科受 診についてはかかりつけ医の紹介状を持って職員が付き添っ て受診し、家族にも同行してもらっている。歯科医と心療内 科医の往診があり、利用者の安心に繋がっている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 介護職員は常に利用者の変化を観察し、情報や気づきを看護 職員に報告、看護職員はその変化に対応し、医者との相談、 連携を行い必要時は受診や看護を受けられるように支援して いる。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 利用者が入院された場合は、こまめに面会に行くなど、安心 して頂けるように対応し、家族と相談しながら、また早期退 院に向けて病院関係者（医師・看護師）との情報交換、相談を 行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入所の前に終末期また重度化した場合についての話し合いを 行っており、職員全員に周知している。終末期のあり方につ いて、本人、家族の要望を聞き、施設でできることを医療機 関とも相談し、チーム全体で支援取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 事業所では「看取りに関する指針」を作成し、充実した医療 体制のもと看取りに取り組んでいる。入居時に利用者と家族 に終末期ケアについて意向確認を行い、重度化した場合は、 医師を交えて話し合いながら支援している。職員はたん吸引 の研修を受けて看護技術の向上を図ったり、家族の了解を得 て医師が常時状況を把握できるよう監視カメラを設置して緊 急時への備えを行っている。職員は悔いを残さないよう、日 頃から精一杯の支援を行いたいと考えている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に備えてその対応、対処法を定期的に講習し実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練、防災訓練を行っており、職員皆があらゆる方法を心得ている。消防署も近いので協力体制は出来ている。地域の方々にも避難訓練に参加して頂き、災害時の協力体制は整っている。 (外部評価) 年2回消防署立ち合いのもとで日中・夜間想定で避難訓練を実施している。車いすレベルの利用者は布団に包んで階下に搬送する等実践的な訓練を行っている。訓練には運営推進会議メンバーである近隣住民も参加しており、夜間緊急時は近くに住む職員が駆けつけるよう取り決めている。管理者は地区の防災士の任に就いており、地区防災訓練にも参加している。水や食料の備蓄品を用意し、食材担当者が賞味期限の点検をしている。	管理者は地域貢献の一環として、事業所を地域の一次避難所にすることを検討したいと考えている。運営推進会議で提案しつつ、地域住民や法人事業所との災害時協力体制について協議していくことを期待したい。また、それに伴い、現在の備蓄品の内容や数量が適切であるか見直すことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人一人の生活のレベルにおじて、入浴、排泄、食事等の介助を行っており。プライバシーを損ねないよう言葉かけ、呼び名、敬語等にも配慮している。 (外部評価) 職員は、利用者は人生の先輩であるという認識に立ち、誇りやプライバシーを損なわないよう努めている。トイレへ誘導する際はそれとなく行い、恥辱心に配慮している。呼称については名前にさん付けで呼ぶことを基本とし、過度に親しい呼び名を使用することを謹んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションを取りながら、利用者の表情や反応を観察し、その思いや希望を表せるような対応を心掛け、自分決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常生活の中で、強制するのではなく、本人の希望を優先し、一人一人のペースを大切に、本人の過ごしやすい環境作りを支援している。外出等も参加希望を聞き本人の意思を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれや身だしなみを通して、生活の中での楽しさを感じることが出来るよう、本人の好みを主にしながら支援している。本人の意思が聞けない場合は、家族から以前の好みを聞き、馴染みの装いが出来るよう心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人一人の声を聞き、メニューの参考にし、また外食等を行い、食事を楽しんでもらえるよう、配慮している。また、準備や片付け等、出来る利用者には手伝っていただいている。 (外部評価) 法人の管理栄養士が献立を立て、食材を購入して各ユニット毎で調理をしている。利用者は調理の様子を見たり匂いを感じることができ、適宜野菜の下ごしらえや下膳、食器拭き等できることを手伝っている。3ユニット合同で行われる誕生会には特別にちらし寿司や赤飯を炊き、ショートケーキを用意してお祝いしている。また、利用者の嚥下状態に合わせて食事形態を工夫し、必要な栄養が摂れるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の摂取量、水分出納量を把握し、1日量を確保できるように支援している。一人一人に応じて刻み食や補助食品を提供したり、水分も摂取しやすいように提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人一人の口腔所内に応じ口腔ケアを毎食行っている。一人で出来ない方は介助して行い、自分で出来る方は見守りで対応している。義歯を使用しているは、義歯用歯ブラシを使用し、週2回定期的に消毒を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 一人一人の排泄パターンを排泄チェック表を用いて職員皆が把握し出来るだけトイレでの排泄が出来るように、個々に合わせた誘導、声掛けを行い、自立に向けた支援を行っている。尿意、便意の訴えの出来ない利用者については、定期的に確認し交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 職員は排泄シートに記録して一人ひとりの排泄パターンを把握して誘導し、トイレで排泄ができるよう支援している。使用する排泄用品について必要に応じて話し合って検討し、状態に合わせたものを使用するよう考慮している。夜間は睡眠を妨げないように考えており、夜間帯の尿量を測定して把握し、一人ひとりに適した排泄用品を選択している。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便秘に関する理解は皆周知しており、個々の便秘の原因を確認し、食事メニューの検討、水分、散歩やリハビリ、運動などを行い、便秘予防に取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴日は決まっているが、一人一人の希望、タイミングは出来るだけ合わすように配慮している。また気持ちの良い入浴が楽しめるように心がけている。</p> <p>(外部評価) 一般家庭浴槽に週3回を基本に入浴している。立位が困難な利用者用に特殊浴槽が設置されており、2人体制で介助している。脱衣室には暖房器具を置いて急な温度差がないよう配慮されている。入浴が苦手な利用者は、声かけを工夫したり日を変える等して、無理強いをしないよう考慮して支援している。また、入浴中は会話や、歌が好きな利用者は気持ち良く歌を唄って入浴を楽しんでもらっている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 個々の意見を尊重し、ゆっくり過ごせる自由な時間を設けている。必要な休息、睡眠を支援している。就寝時間も本人の希望に合わせて声かけ、誘導を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬のマニュアルを作成し、職員に皆が周知しており、利用者の処方薬について、目的、副作用は理解している。自力で服薬できない方は介助している。症状に変化がみられた場合は、主治医と相談しその症状に応じた対応が出来るように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の出来ること、出来ないこと把握しており、簡単な役割を持っていただくことにより、生活に張りを持っていただいている。個々に応じカラオケをしたり、カルタ、オセロをしたり、気分転換を図れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日状態、状況に応じ散歩、買い物などの気分転換を行っている。また外出場合は、それぞれの希望を聞きは配慮したうえで計画している。地域交流会などにも参加したりしている。 (外部評価) 天気の良い日は、近くの公園に散歩に出かけたり、職員の買い物に同行している。また、敷地内に広々とした菜園があり、散歩をしたり日光浴を楽しむことができる。犬小屋やベンチがあって近隣住民も立ち寄ることがあり交流の場ともなっている。法人が所有するマイクロバスやリフトバスに乗ってぶどうやいちご狩りに出かけたり、回転寿司等の外食を楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、欲しいものがあれば購入できるように支援している。現在はお金は施設管理にしてお自分で所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の制限がない限り、本人の希望に応じて電話や気持ちの伝達など、そのと配慮して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレには芳香剤を設置し、汚染時は速やかに消毒、掃除を行っている。湿度、温度、明るさなどの環境整備を配慮し、季節の花を飾ったり、金魚を飼ったりして、生活感、季節感が感じられ、居心地良く過ごせる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 各ユニットの中央にオープンキッチンのあるリビングがあり、椅子席とソファ席が設けられており、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。玄関やユニット入り口には職員が持ってきた生花が飾られており、季節を感じることができる。また、水槽を置いて金魚を飼い利用者が世話をしているユニットもある。階下に広いリハビリ室が設けられ、機能訓練や医師の指示による物理療法を受けることができ、利用者が意欲的に活用している。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビング、居室等、自由に過ごして頂いている。利用者同士仲の良い方は近くで過ごせるような工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所の際は、本人の馴染みの物の持ち込みをお願いしており、本人がなるべく抵抗なく生活して頂けるような環境作りを行い、本人が居心地良く過ごせるような工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室はエアコンとベッド、整理ダンス、寝具が備えつけられており、各部屋に温度計を設置して室温管理を行っている。利用者は自宅からテレビや椅子、大切にしていた日本人形等を持ち込み、孫やひ孫、家族の写真を飾って個性的な部屋になっている。中にはお位牌を置いてお供えをしている利用者もいる。季節毎の寝具や衣類の交換は家族が行っている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 生活の中で、歩行器やシルバーカーを使用し自立した歩行ができるように環境整備し転倒防止に努めている。また、安心して自立した生活が送れるようにトイレ誘導用の張り紙等、工夫している。</p>	